

# 天保九年大阪天満宮砂持の経済的側面に関する一考察

池田 治 司

はじめに

本誌前号において、私は天保二年（一八三一）から同三年（一八三二）にかけて、幕府の許可のもとで同時期に行われた江州勢田川から淀川筋河口に至る統一的な川普請の状況を、勢田川附洲、淀川筋堤普請及び大坂市中御救大浚に分けて概観し、資料から読み取れるそれぞれの特徴をまとめた。<sup>1)</sup> 同時期の同川筋における各流域の普請状況の中で、大坂市中の御救大浚の様相が特に異質で、他地域にはない都市財力を背景に、半ば狂乱的な民衆のエネルギーをもって実施された。それはまた、民衆にとつて単純な土木作業ではなく、従来からある神社の再建・修復に際して川浚で出た砂で高低のある社地を整える「砂持」に通じる都市特有の神事的性格を持っていたことを確認した。また事実、天保年間の大塩焼けや天保大飢饉の前後、幕府は一転して砂

持を奨励し、景気回復策として利用していること<sup>2)</sup>にも、この時代における社会的特徴が現れていることを示した。

本稿ではこの時期の砂持の具体例として、天保九年（一八三八）四月二四日から行われた大阪天満宮の砂持を取り上げ、当館に残る史料を紹介し、その内容を中心に寄進者や寄進額を検討することによって、経済的側面からこの砂持の実態を探ってみたい。

既に、天保九年に大阪天満宮で行われた砂持については、研究成果があり、時野谷勝氏は「天満天神社と大坂町人——大塩の乱前後における」<sup>3)</sup>の中で、江戸時代に神主職を勤めた滋岡家の記録を資料として、大塩の乱以前の飢饉による物価騰貴などの世情不安な時代に、大阪天満宮が経済的にどのような状況にあったかを検証している。そして、同史料群に含まれる「天満宮由来・附り再建一件」と題する資料

を引用し、天保九年の砂持の寄進額やその使途について、「寄進額が銀六〇貫目にのぼり砂持人足の賃金など諸入用二六、七貫目を差引いた残額三三、四貫目をもって台所・参籠舎、長蔵などを再建したことが明らかである。」と述べている。また、田中豊氏は「大坂の砂持」<sup>3</sup>において、同じ滋岡家の記録をもとに、特に民衆文化の観点から、この砂持の具体的な特質を追い、その社会的意味を探っている。ここでも、経済面についてはやはり、時野谷氏同様に「天満宮由来・附り再建一件」からの同様の記述があるのみである。しかし、田中氏は寄進上り高銀六〇貫目の中には賽銭高も算入されているとし、またその日数に鑑みれば、その収入は相当な額であったといつてよいと記している。

いずれにしても、この砂持に関する寄進者やその寄進額については、具体的に明記・検証された研究成果はない。今回收利用する史料「当社砂持」は、当館所蔵の佐古慶三教授収集文書に含まれ<sup>4</sup>、その内容は、この砂持の寄進物覚書である。ただ、作成者の記載がないので、信憑性に問題がないわけではないが、希少性という意味では貴重な史料であることに間違いはない。

#### 一 「当社砂持」翻刻

この史料は横帳で、法量は縦一一・八センチ、横三二・七センチである。帳面は全部で一〇丁あり、虫食い、汚れなどの破損はほとんどない。

まず、紹介のためにこの史料の翻刻文を掲載する。

天保九戌戌年

從四月廿四日晴天三七日間

当社砂持

天満宮御本社

天保八丁酉歳二月十九日  
御本社并末社神輿蔵不残焼

閏四月十四日夕 七日之間日延  
同日迄

閏四月廿一日夕 氏地町々夕  
同日迄 晦日迄 砂しんけん持

砂揚場 天満九丁目浜  
難波橋北詰西浜

砂持場 御本社焼跡

上り物覚

一 肥後米三拾俵 堂島

金千疋 浜

一 肥後米三俵 樋之上町

一金壹両 豊津  
仙右衛門

一 肥後米三俵 のふ人橋  
金百疋 後藤氏

一米三俵 備前蔵  
仲間

一金五百足	梅ヶ枝新地 若中	一金五百兩	堂島 弥左衛門町 借家中
一銀三枚	堂島 永来町	一金千足	天満 舟大工町
一金千足	南久宝寺町 晴雲堂 壹丁目	一錢十三貫文	同借家町
一錢拾貫文	過書 天道方耕	一錢十五貫文	山田町 丁中
一金壹兩貳朱	平野町 佐野氏	一錢十貫文	天満山 中
一御神楽鈴 壹振	坂町 井筒屋	一金七百足	上町 深切講
一錢拾五貫文	中すじ 百姓中	一錢十貫文	魚屋町 丁中
一錢十五貫文	南木幡町 家守中 借屋中	一錢壹貫五百文	同借家中
一金百足	嶋の内 茶屋中 神事講中	一錢貳拾貫文	高浜 尚学堂 門人中
一錢燈籠一对	天満九丁目	一金貳兩	嶋の内 藤田氏
一銀三枚 肥後米拾俵	安治川 薪問屋	一錢廿貫文	天満東西 米屋中
一金五百足	島の内 茶屋中	一金貳兩	上町木綿 仲間
一錢三拾貫文	江の子島 西町雀町中	一錢十貫文	大工町 丁中
一肥後米三拾俵	天満東組 南十町	一錢十五貫文	富島巷丁目 丁中

一 錢十貫文	北野 青雲堂門人中	一 錢三十貫文	天満拾一丁目 家守中
一 錢十貫文	京橋町 丁中	一 同十八貫文	同 借家中
一 金三兩	綿屋町 丁中	一 廣嶋米七俵	源八町 丁中
一 錢廿五貫文	北木幡 丁中	一 米六俵	廣島蔵 仲間
一 金四百足	うつぼ 干鯛中 拾軒	一 錢五十貫文	銅細工仲間
一 金貳兩	高麗ばし 玄鷲堂 門人中	一 肥後米拾俵 金百足	堀川組 古道具屋 仲間
一 米三俵	天満拾一丁目 若中	一 米拾俵 錢百貫文	ざごば 浜
一 金千足	天満絞油問屋 銘々	一 錢三十貫文	ざごば 魚問屋仲間
一 金五百足	堂じま 河内屋仙助	一 米貳拾俵 金貳百足	酒造家 播磨屋 同 藤兵衛 義兵衛
一 肥後米三俵	寺島 九条村町	一 錢貳拾貫文 金貳百足	油仲買 仲間
一 金壹兩 米六俵	寺嶋町	一 錢十五貫文	越後町 丁中
一 米七俵	友古町 丁中	一 同三拾五貫文	摂津国町
一 錢十貫文	太々中	一 金三兩	北富田屋 町中
一 金五百足	鏝屋中	一 金貳千足	炭問屋 中
一 肥後米拾俵	天満拾一丁目 丁中	一 肥後米三俵 金貳百足	池田町 丁中

一 錢五貫文	西樽屋丁 家守中	一 錢三十貫文	天満 市の側
一 同十貫文	同借屋中	一 同十貫文	祭礼講
一 錢十五貫文	堂島 船大工仲間	一 錢五拾貫文	江の子じま 東町
一 米三俵	肥前蔵 仲間	一 同五拾貫文	樋之上町
一 金五百疋	天満 佐野氏	一 金貳千疋	炭問屋中
一 金三兩	源蔵町 家守中	一 錢十貫文	いせ町 酒造家何某
一 錢十五貫百拾貳文	借屋中	一 同十五貫文	天神筋町 家守中
一 錢貳拾貫文	江戸積線綿 問屋	一 同十貫文	同借屋中
右割方壹軒分 壹貫三百七拾貳文私方分出申候		一 同貳十貫文	はたご町 酒造家三軒
一 錢十五貫文	天満上組 屋根屋仲間	一 同貳十貫文	南組 酒造家仲間
一 錢鳥居壹本 金貳朱銀壹朱二而額一面添	御供物講	一 同十貫文	小山屋店 市兵衛
一 米拾貳俵	堂島 中島屋徳兵衛	一 肥後米三俵 金貳百疋 錢三貫文	天満南組 植木屋仲間 植木屋御中
一 同三俵	谷町酒造 何某	一 錢十貫文	川西 古道具仲間
一 錢五拾貫文 地車出ル	天満組 酒造家中	一 金五兩	菅原町 丁中
一 錢三十貫文	老松町 丁中	一 錢十貫文	川西組 上荷仲間
一 金貳兩	氏地 材木屋仲間	一 金五兩	長堀 薪仲間

一 肥後米五俵	天満実正寺 御堂世話方	一金貳百疋	南地戎橋 商人中
一金貳両	表門前 村上門人中	一 肥後米三俵	天満組酒造家 社用中
一 酒壹駄	吹田屋両家	一 錢十五貫文	東樽屋町 丁中
一 肥後米三俵 金百疋	堂島 八十島氏 并門第中	一金貳百疋	古手町 池田氏 并門人中
一 錢十五貫文	旅籠町 下人中 借家中	一 錢六拾貫文	曾根崎新地 三丁目 三丁目
一 錢十貫文	下半町 丁中		丁人借屋中
一 錢三十貫文	堀川東 手伝中	一 錢十五貫文	砂原屋敷 借屋中
一 錢五拾貫文 酒樽壹挺	三郷 綿仲間	一 同三拾貫文	三郷 豊屋中
一 肥後米拾俵 銀五両	三番組 番匠仲間	一 同貳拾貫文	堀川町 丁人中
一金五両 桃打貳張	東西四番組 大工仲間	一金三兩 米三俵	木津川 中
一金五百疋 同百疋	天満六番組 大工仲間 同組頭中	一 錢細工十鶴盤 壹丁	河野 四海堂 門人中
一 加賀米壹俵	加州蔵 仲間		夫婦町 丁中
一 錢十五貫文	川魚屋中 仲買中	一 錢十五貫文	
一 銀壹枚	長浜屋勘助		

一 錢十貫文	一 錢三十貫文	一 金千疋	一 錢十五貫文	一 錢十貫文 銀貳兩	一 白銀貳枚	一 廣島米壹俵 金五十疋	一 肥後米三俵 金壹兩 桃打貳張	一 金千疋 同五十疋	一 金壹兩	一 米壹俵 金壹兩	一 金五百疋 米五俵	一 錢五百疋 錢五貫文	
南森町中	又次郎町中	有馬町中	西国町西半町 丁人借屋中	当札屋 (高力)中	堀川町岡本氏	東樽屋町 炭屋安兵衛	堀江市場 若中	今橋式丁目 山本氏中	鳴尾町中	上ノ口組 茶船中	戎島 丁内中	徳井町 中井東啓 門人中	
一米三俵	一 肥後米九俵	一 同式十五貫文	一 錢十貫文	一 金千疋	一 肥後米三俵 金貳百疋	一 錢五十貫文	一 錢五十貫文	一 金千疋				一 同壹貫百文 一 錢八拾貫文	
小じま蔵	元伏見坂町 置屋中 茶屋中	空心町中	上大門東詰 林人中	伏見町 唐小間物中	中之島 常安門人中 柴田門人中	堂島 船大工屋町中 家守借屋中	天満市場	安治川 南 北 三式丁目 四式丁目 三式丁目 三式丁目	同瀧川町	同八丁目	同七丁目	天満六丁目 同六丁目 同六丁目 同六丁目	同借屋中

一金五百足 伏見町左野氏  
并門第中

一錢百貫文 堂島新地  
拾町丁人中

一錢十六貫六百文 同老丁目  
借屋中

一同式十式貫文 同式丁目  
借屋中

一同十貫文 同三丁目  
借屋中

一同八貫八百文 同四丁目  
借屋中

一同七貫七百文 同五丁目  
借屋中

一同廿五貫文 同中老丁目  
借屋中

一同式十貫文 同式丁目  
借屋中

一同式十貫七百文 同北ノ町  
借屋中

一同拾九貫二百文 同中三丁目  
借屋中

一同十五貫文 同うら町  
借屋中

一同式十貫文 宮の門町  
丁中

一錢廿五貫文 富島式丁目

一肥後米拾五俵 天満東西  
酒仲買中

一金千足 筑前蔵  
仲間

一錢廿式貫文 堂島  
裏四丁目

一金百足 同町年寄

一銀百目 安治川十三浜  
組合中

一御寄進 北浜

一砂持人足料 何某

一桃打式張 金壹兩

一錢廿貫文 兩程御定問屋  
納屋物新さく屋  
仲

一銀廿五兩 与力町  
門佐野氏  
中人

一錢十貫文 高島町  
丁中

一錢掛物壹腹 新町越後町  
池田屋  
伊助

一米三俵 天満  
船大工仲間

一金貳百足 塩式若中

一金三百足 南北堀江組  
茶船仲間

一木挽工数 天満浜  
三千人



一 同三百人	天満五番組
	天満三番組
	天満儀兵衛組
	春山組
	嘉半兵衛門
	堀川東
	十七番左官間
一 銭式十貫文	本天満町
	門瀧川氏
一 白銀式枚	天満
	酒造家中
一 銭百五拾貫文	北久太郎町
	吉岡氏中
一 銭燈籠壹対	濃人 <sup>(豊)</sup> 菊池氏
	門第中
一 金貳百疋	南本式
	柴山氏
一 金七百疋	濃人 <sup>(豊)</sup> 橋
	門後藤氏
一 米三俵	江戸積カンプツ
一 金貳百疋	問屋中
	木綿
	堺筋組
一 金壹朱	本町松屋町
	てつち蓮

一 金貳朱	せんば
	かけい蓮
一 金百疋	南せんば
	仕丁蓮
	砂持二付諸仲間より
	寄進物割方左之通り
一 銭貳拾貫文	江戸積
	繰綿問屋
	此分言軒二
	壹貫三百七十式文づゝ
一 金貳百疋	木綿堺筋組
	此分十九軒二わり
	壹軒分

二 寄進地の分布

近江晴子氏によると、「氏地とは、神社の氏子が居住する区域を」いい、「氏地相論の史料をみると、社領を持たない大坂三郷の氏神社にとつて、氏地と氏子がいかに重要であつたかがよく理解できる。」<sup>(6)</sup>という。このため、この史料から寄進地の分布をみても、多くは大阪天満宮の氏地と重なる。大阪天満宮の氏地をおおまかに示すと、堂島を含む大川以北の天満郷の地域と、河口付近の雑喉場や江之子島・寺島・戎島などがそれにあたる。

近江晴子氏の論文の末尾に付記されている「大阪天満宮の氏地史料」のうち、天保九年に一番年代的に近く、明治五年（一八七四）三月一七日の町名分合改称以前の明治三年（一八七二）五月二五日の